レター

「1954年に日本各地で観測された雨水中全 β 放射能の再検討」 の訂正

辻村 憲雄^{*1}

本誌 54 巻 1 号 40 ~ 44 頁に掲載された拙稿「1954 年に日本各地で観測された雨水中全 β 放射能の再検討」に誤りがありました。論旨に特に影響を与えない箇所ではありますが、ここに訂正させていただきますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

観測された「放射能雨」の出処の説明として、III 結果の冒頭に、

「一方、9 月の観測は、観測された放射能の時間変化の傾向と空気流跡線の解析から 9 月 13 ~ 16 日に旧ソビエト社会主義共和国連邦内で実施された核実験によるものと推定されていたが、UNSCEAR の資料によれば、セミパラチンスクでの核実験の実施は 9 月 29 日以降（10 月末まで）とされており、観測日と辻褃が合わない。このため、実際の出処はよく分らない。」

と記述していたのですが、これを

「一方、9 月の観測は、観測された放射能の時間変化の傾向と空気流跡線の解析から 9 月 13 ~ 16 日に旧ソビエト社会主義共和国連邦内で実施された核実験によるものと推定されていたが、UNSCEAR の資料によれば、これは 9 月 14 日にアラルスク地方トスク（Totsk, Aralsk）で実施された核実験に対応すると見られる。また、10 月以降の観測は、9 月 29 日から 10 月 30 日にかけてセミパラチンスクで行われた核実験によるものと思われる。」（下線部分が訂

正箇所）

に訂正いたします。

旧ソ連による 9 月 14 日の核実験は、論文で引用していた UNSCEAR 報告書¹⁾にも記載されていたのですが、セミパラチンスクとノヴァヤゼムリヤの箇所ばかりに筆者が気を取られ、それらの次ページに記載されていた情報を見落としたことが、誤った説明の理由です。当時の報道（朝日新聞、1954 年 9 月 23 日付）によれば、16 日付タス通信で「この数日間にソ連領内で原子爆発が行われた」という発表もなされていたとのことなので、当時の研究者らが、核実験の詳細な位置までは特定できなかったものの、観測された放射能雨が旧ソ連起源だと考えたことは自然なことだったと思われます。

参 考 文 献

- 1) UNSCEAR: Sources and Effects of Ionizing Radiation, 2000 Report, Annex C (2000).

辻村 憲雄（つじむら のりお）

1993 年から動力炉・核燃料開発事業団、二度の改組を経て現在に至る。博士（工学）東北大学。外部被ばくによる線量の測定評価を中心に個人線量計から臨界警報装置まで幅広く研究を進めているほか、最近では専ら 1950 年代の核実験フォールアウトについて調べている。

E-mail: tsujimura.norio@jaea.go.jp

Norio TSUJIMURA; Corrigenda: Review on the Gross Beta Activity in Rainwater Observed throughout Japan in 1954.

^{*1}（国研）日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所；茨城県那珂郡東海村村松 4-33（〒319-1194）Nuclear Fuel Cycle Engineering Laboratories, Japan Atomic Energy Agency; 4-33 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1194, Japan.

Corresponding author; E-mail: tsujimura.norio@jaea.go.jp